

Library News



令和4年3月15日 3月号 湖南高等学校図書館

福島県立長沼高等学校より、本を約670冊譲っていただきました。湖南高校にはない本が多く入りました。是非図書館に足を運んでみてください。

今回のLibrary Newsでは、譲ってもらった本の中でも、イチオシの本を紹介したいと思います。

3月15日(火)より長期貸出を行います

貸出冊数：無制限 返却期限：後日お知らせ

『変な家』著：雨穴

YouTubeで900万回以上再生された、「【不動産ミステリー】変な家」には続きがあった！

謎の空間、二重扉、窓のない子ども部屋。間取りの謎を辿った先にある「真実」とは。



『ひらいて』著：綿矢りさ



たとえという名前の男子に恋をした女子高生・愛。彼の恋人が同級生の美雪だということを知り、次第に彼女に接近する。

火の様に激しい気性を持った愛は二人の穏やかな交際がどうしても理解できず、苛立ち、ついにはなぜか美雪の唇を奪う。

高校生の青春と恋愛を詩的に描いた小説。

『岸边露伴は叫ばない』原作：荒木飛呂彦

一昨年、昨年と年末にドラマ化で話題となった、『岸边露伴は動かない』を原作としたノベライズ。

禁止用語とされる「くしゃがら」。この言葉の意味は？
取りつかれたように言葉の意味を調べる作家・志士十五。
次第に十五が発する言葉もくしゃがらするように…。

「くしゃがら」含む5編の短編小説。



『火のないところに煙は』著：芹沢央



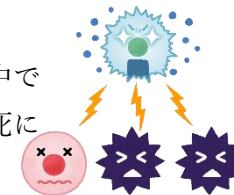
評判の占い師、悪夢が憑く家、鏡に映る見知らぬ子ども。
「神楽坂を舞台に怪談を書きませんか」突然の依頼に作家の〈私〉は驚愕する。私は迷いつつも真実を求めて執筆するが…。

あなたはこれを読んでもまだ他人事でいられるか。

『はたらく細胞 BLACK』漫画：初嘉一生

胃潰瘍、痛風、水虫、心筋梗塞…。ボロボロの体の中で必死に働き続ける細胞たち。心肺停止した状態でも必死に酸素を運ぶ赤血球の熱い仕事を見届けろ！

『はたらく細胞』『はたらかない細胞』も合わせて読めば生物の成績がupすること間違いなし。



『冷たい校舎の時は止まる』著：辻村深月

雪が降るある日、いつも通りに登校したはずの学校に閉じ込められた8人の高校生。開かない扉、無人の教室、5時53分で止まった時計。凍り付く校舎の中、2か月前の学園祭の最中に死んだ同級生のことを思い出す。でもその顔と名前が分からない。なぜ分からないのだろうー。



『この顔と生きるということ』著：岩井建樹



アルビノや顔の変形、アザ、麻痺…。外見に症状がある人たちがジロジロと見られ、学校や就職、恋愛などで苦勞することがある。そんな実情を、20人を超える当事者を取材した。「感動ポルノではないか」「当事者とどう接すればいいのか」様々な感想が寄せられた本書。あなたは どう思いますか？

『ペリリュー 楽園のゲルニカ』著：武田一義

昭和19年、夏。太平洋戦争末期のペリリュー島に漫画家志望の兵士、田丸はいた。そこはサンゴ礁の海に囲まれ、美しい森に覆われた楽園。



そして日米合わせて5万人の兵士が殺し合う狂気の戦場。当時、東洋一と謳われた飛行場奪取を目的に襲い掛かる米軍の精鋭4万。祖国から遠く離れた小さな島で、彼らは何の為に戦い、何を思い生きたのか。

戦争の悲惨さ、恐怖をかわいいタッチで描いた漫画でどうぞ。

『早く絶版になってほしい#駄言辞典』編：日経 xwoman



「女の子が入れたほうがお茶がうまい」「え、妻が改姓するものでしょ」「男なんだから黙って働けよ」「男の子らしくなってきた〜」「子どもを産まなかったほうが問題」「女性の意見もどんどん入れていこうね！」



こんな言葉を聞いたこと、言われたこと、やってしまったことはありませんか？このような言葉は無意識の思い込みから来ることがほとんど。

価値観のアップデート、しませんか？

『犬房女子』著：藤崎童土

動物愛護法改正に伴い、熊本県動物管理センターで働き始めた玲と和美。ガス室での殺処分が漫然と続く職場で、1匹でも多くの犬猫たちを救おう、せめて環境を改善しようと奮闘するが…。ペットショップなどで安く命を買えるからこそ、読んでほしい1冊。



『リアルサイズ古生物図鑑 古生代編』著：土屋健

さまざまな時代のさまざまな古生物を、現代の身近な風景に配置してみた。「え！これこんなに大きかったの？」「あれ、意外と小さい…？」数字だけでは掴めなかったサイズ感が、本書では直観的に掴めます。古生物をめぐり、現代と古生代が交錯しながら展開するシュールな世界。「あの生物はこんなサイズだったの！」こんな感覚をリアルに感じられるマニアックな1冊。

